

第1回宣教旅行(2)

使徒の働き13:26-52
2016,11,6 HKJCF

概観

- 序)①第1次伝道旅行②キプロス島
③ペルガ→アンテオケ(小アジア)
1、続)アンテオケでの宣教(1)v26-35
2、同 (2)v36-43
3、ユダヤ人から異邦人へ v44-52
4、結論・適用・祈り

I 続)アンテオケでの宣教(1)

- 1、神の恵みの強調 v16-25
2、イエス様の十字架と埋葬
3、復活とその証人
4、預言の成就
①詩2:7(v33)
②イザヤ55:3(v34)
③詩16:10=使2:27(v35)
⇒パウロは神様の恵みと人間の責任を明確にし、イエス様の救いを宣言する

II 続)アンテオケでの宣教(2)

- 5、人々の反応
①ダビデ以上のキリスト
②モーセ以上のキリスト
③招き:ハバクク1:5(v41)
v46 ユダヤ人の反発
v48 異邦人の救い
⇒神様の主権に基づく選び(予定)と自らの意志で救いを拒否する人間の責任

III ユダヤ人から異邦人へ

- 1、ユダヤ人の拒絶
2、なぜ、ユダヤ人は反発するのか？
①一神教の構造:キリストの神性の否定
②自己義認:原罪の教理の曖昧さ
③ユダヤ人の妬みのため:神様の摂理
ローマ11:25-27
3、パウロとバルナバの宣言マタイ10:14
⇒喜びをもってイコニオムへ

IV 結論・適用・祈り

- 1、神様の恵みと人間の責任
①全てを神に任せ、結果をみ心と受取る
②全力をもって神様に仕え、賜物を用い、自らの成長に賭ける ⇒ 恵みで一つ
2、ユダヤ人の反発:自己義認の構造
①自己義認:一神教・自力救済<原罪
②選民意識:排他的信仰の体系
③実証主義の軽視・精神主義的信仰
⇒ローマを無視する独善主義と没落
⇒終末におけるユダヤ人の救い